

液卵の安定供給に尽力

イフジ産業（福岡県粕屋町）

藤井 宗徳社長

液卵の製造を手がけ、2025年9月の中間連結決算では売上高、純利益とも過去最高を更新した。通期の販売数量も最高となる見通しだ。

ただ国内では鳥インフルエンザが深刻化し、卵の価格は高止まりが続く。20年代に入り、大量の殺処分が毎年のように発生しており「鶏の成長が（供給に）追いつかず、卵のサイズが小さい。その分、液卵が減少してい

ひと



るのが悩みの種」と明かす。安定供給のため2年ぶりに海外から卵を輸入したが、価格は国産より高い。「少なくとも半年は高値が続くだろう」とみる。大手パンメーカーなどは卵を使わない商品開発に動き始め、「一度減った業務用需要は戻りにくい」と警戒する。リスク商材へと卵の見方が変わりつつある中、供給を守る試みが続く。